

## 第4回 小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 平成25年3月12日（火）午後6時30分～午後8時38分
- 開催場所 小平市立中央公民館 講座室1
- 出席者 椎名委員、山田委員、早田委員、宮崎委員、船津委員、千葉委員、宮村委員  
（順不同）
- 傍聴人 なし
- 議題 第13期の検討課題について
- 配付資料 （1）第4回緑化推進委員会 次第  
（2）第13期緑化推進委員会 第1回から第3回までのまとめ

### 会議要旨

#### 委員長

第13期の提言は、総論としてまとめるか、テーマを絞ってまとめるかを考える必要がある。

#### 委員

テーマを絞り込んだ方が、方向性が出てくるのではないか。

#### 委員

今回の提言は、「防災」をテーマとして、緑化と用水を考えていくのはどうか。

#### 委員長

歴史ある雑木林や用水を、どう活かしていくかという視点も必要である。例えば、公共施設に濾過機を設置することで、現在でも防災のために用水を活用できるのではないか。

#### 委員

用水の水は濾過をしなくとも煮沸すれば飲めるかもしれない。それを周知すれば良いのではないか。

## 委員

用水については、市の歴史からも、飲み水として活用できるようにする必要がある。しかし、用水に水が流れていない部分もあるので、全域に流れるよう水を確保する必要がある。

## 事務局

用水の水量については、絶対量が少ない。このことについて、東京都水道局に相談したところ、用水に流れている水は飲料水となるものであり、水量を増やすのは難しいとのことだった。

## 委員

雨水を貯めて、水が流れていない用水に流すのはどうか。

## 事務局

用水の水が流れていないところに雨水を流すことについては、安定して用水に流すための技術的な課題はあるだろうが、大変面白いアイデアだと思う。

市は雨水を地下に浸透させることを基本として考えている。しかし、宅地化にともなって、雨水は地下に浸透せずに流れていってしまっている。そこで、小平市内で活用できないかと、宅地内に雨水浸透ますを設置する場合の補助を行っている。

## 委員

企業が所有する市内の樹木を保全できないのか。

## 委員長

企業は条例に基づいて樹木の保全をしていると思う。

## 事務局

現在、開発に関する条例の見直しを行っている。市は、裁量の範囲内で企業と協力し、どのような方法で樹木の保全をしていくのかを検討していきたい。

## 委員長

協力要請に応えてくれた企業を表彰するのはどうか。また、市が、災害時における燃料としての薪の必要量と用意できる量を把握し、不足する分を企業に協力要請してはどうか。

ところで、災害が起きてから物資が届くまでの時間はどのくらいかかるか。

## 事務局

市としては、3日間は考えて欲しいが、その前に災害協定を結んだ自治体から物資が届く。また、災害時には食べ物よりも水の方が問題となり、お湯を沸かす際に薪は大きな力を持つと考えている。

## 委員

災害時に備えて、木をチップ状にして保管し、年に1度防災訓練で使用してはどうか。

### 委員長

市民に雑木林の必要性を理解してもらうために、雑木林の樹木を伐採して発生した丸太を薪小屋で保管し、薪として目に見える形にしたほうが良い。

### 委員

薪を使うにも、火の起こし方を親が知らない。自治防災訓練で、薪を使った火起こし体験を親子でさせてはどうか。

### 委員

伐採した木が、生き延びるためのエネルギーになることを自治防災訓練等で市民が理解すれば、雑木林の必要性の理解にもつながる。

### 事務局

薪の活用については、防災安全課との調整のうえ、自治会等に説明することができる。

### 委員長

自治防災組織にコモンズの考えで育てた人材を加入させ、ネットワークを作ってはどうか。

### 委員

その際には、自治防災組織が高齢化している問題も考える必要がある。

### 委員長

また、人材が災害時に市内にいないといけないことを考えると、高齢者、主婦及び中学生が重要となる。特に市内の学校に在学している可能性が高い中学生を中心に、人材育成をしていくのが良い。

### 委員

5月に開催されるグリーンフェスティバルで、緑と水に関する防災の展示はないのか。

### 委員

水車を利用した発電機をグリーンフェスティバルで展示したい。

### 委員長

緑化推進委員会で話したことについて、市民が知る機会を増やすことは良いことだと思う。その一つの具体例として、委員が試作した水車の写真をパネルにして展示してはどうか。

さて、今回は今日までの話をまとめ、「用水と雑木林を使った小平の防災」という内容で資料提供していきたい。

以上